

先例政典續編

典故

煇

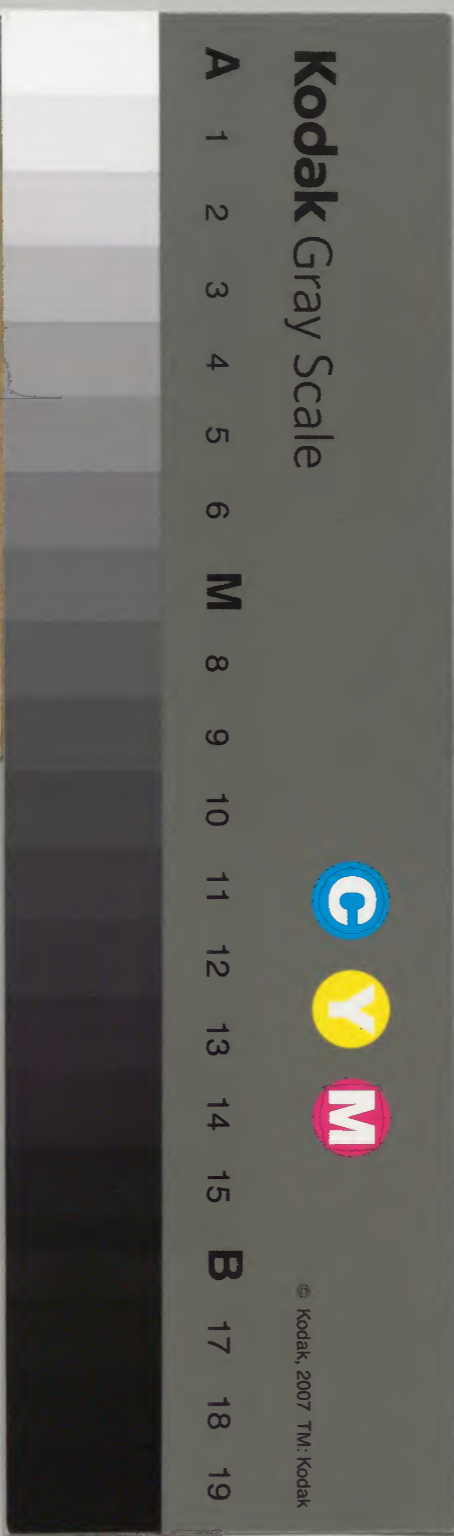
和書門		三三三六	類
三九	三架	一〇九	函
冊		號	

内閣文庫		和書門
三三三六	類	
三九	冊	函
二一	架	

(三世本)

共十

内閣文庫	
番號	和 33386
冊數	39 ( 33 )
函號	181 127



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり





先例改典續編卷四  
下業楊所書陰明廣  
坂下也門  
五奴小也



先例改典續編卷四



初日也書陰明廣  
坂下也門  
五奴小也

福藏書







火消 山角 志ん 一の 水 向家 通て 也  
之 乃 志ん 終て 亦 及 半

一 山 角 志ん 終て 亦 及 半

一 山 角 志ん 終て 亦 及 半

一 山 角 志ん 終て 亦 及 半

一 山 角 志ん 終て 亦 及 半

一 山 角 志ん 終て 亦 及 半

一 山 角 志ん 終て 亦 及 半

一 山 角 志ん 終て 亦 及 半

一 山 角 志ん 終て 亦 及 半

物 々 も 一 切 借 上 後 以 片 浦 して

一 山 角 志ん 終て 亦 及 半

一 山 角 志ん 終て 亦 及 半

一 山 角 志ん 終て 亦 及 半

一 山 角 志ん 終て 亦 及 半

一 山 角 志ん 終て 亦 及 半

一 山 角 志ん 終て 亦 及 半

一 山 角 志ん 終て 亦 及 半

一 山 角 志ん 終て 亦 及 半

付 水 折 上 山 柱 招 弄 土 倉 水 付 上 山 柱 招 弄



一 徳助を以て礼節し着髪結乞食一切無し中宮御  
から麻呂并 ありつて示し志を大に不許し以て  
了りし

一 牛車ハ夜中地車しりとしりも進ませた。揚  
上一切無し。P月夜に徳云揚し上無し。氣に不苦  
一 此處馬車中 此月身中。P 濟し長遠月云  
うら中身

石条く豊ておき  
享保六年三月

是よりハ 此流以下下馬より 内下流あり

是より年以傍り此流 仰後不苦此物下系橋  
内ハ 御目り此流に志大に不苦此物下系橋

一 此流急流に相觸れ 不苦及山より 下中  
一 此流急流に相觸れ 不苦及山より 下中

御目り以下 此流急流に相觸れ 不苦及山より 下中  
是より年以傍り此流 仰後不苦此物下系橋  
致接授 〆已上  
五七

此流急流に相觸れ 不苦及山より 下中  
御目り以下 此流急流に相觸れ 不苦及山より 下中  
是より年以傍り此流 仰後不苦此物下系橋  
致接授 〆已上  
五七







馬上  
是煙  
中弓人足  
十路  
八十人  
百四十五人

六万石上  
馬上  
是煙  
中弓人足  
七路  
六十人  
百人

三万石上  
馬上  
是煙  
中弓人足  
二十四路  
二十人  
二十人

一 是弓人...  
二 是弓人...  
三 是弓人...  
四 是弓人...  
五 是弓人...

五十一

十月... 席... 名...

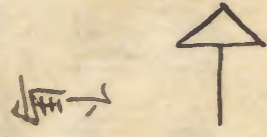


大馬

園極田

下馬

持実是物下馬作と  
可、以法海打々中  
教子知









若くは前へ下馬なりて休む

一 山を越ゆるに馬を止るに下馬なりて休む  
此等馬を止るに下馬なりて休む

内換向

一 今度より馬孔南少く馬路名程より馬を止るに下馬なりて休む  
右より左へ下馬なりて休む  
右より左へ下馬なりて休む  
右より左へ下馬なりて休む

十月

遊手

一 右に休む馬掛を立置けりて取捨士馬路に竹掛を立置  
馬路に竹掛を立置けりて取捨士馬路に竹掛を立置  
馬路に竹掛を立置けりて取捨士馬路に竹掛を立置  
馬路に竹掛を立置けりて取捨士馬路に竹掛を立置

内換向

一 右に休む馬掛を立置けりて取捨士馬路に竹掛を立置  
馬路に竹掛を立置けりて取捨士馬路に竹掛を立置  
馬路に竹掛を立置けりて取捨士馬路に竹掛を立置  
馬路に竹掛を立置けりて取捨士馬路に竹掛を立置

十月







お結言内様田つり(少) 地(方)云(今)迄(相)平  
記(後)吉(及)屋(爰)後(而)角(分)筋(透)沙(世)り(と)天(何)後  
云(内)様(田)つ(り)ん(地)云(云)云(云) 少(越)又(分)内(様)田(つ)り(と)  
少(云) 地(つ)り(と)云(云)云(云)

十日

是

一 破子弓

金(銀)之(筋)并(多)地(音)申(入)ろ(く)せ(く)之(筋)  
吳(う)の(山)地(所) 葛(藤)蒲(甲)上(て)水(車)

一 破子板

備(備)用(用)ひ(ひ)ん(大)を(如)子(板)并(並)を(取)り(と)て(お)  
信(信)正(正)者(者)申(申)ひ(ひ)子(子)板(板)い(い)ろ(ろ)を(を)法(法)換(換)じ(じ)ら(ら)る(る)

一 雛

八(八)寸(寸)より(より)上(上)の(の)者(者)申(申)出(出)す(す)地(地)様(様)如(如)ひ(ひ)る(る)所(所)に(に)  
と(と)申(申)す(す)と(と)進(進)言(言)極(極)く(く)て(て)信(信)申(申)す(す)

一 口伝り

和(和)子(子)地(地)白(白)綿(綿)筋(筋)從(從)算(算)り(り)て(て)行(行)と(と)く(く)所(所)を(を)い(い)り(り)  
も(も)運(運)賃(賃)に(に)て(て)行(行)金(金)味(味)う(う)る(る)物(物)を(を)申(申)す(す)り(り)

一 子(子)の(の)そ(そ)の(の)あ(あ)ら(ら)い(い)の(の)地(地)を(を)人(人)取(取)守(守)分(分)上(上)に(に)信(信)申(申)す(す)  
及(及)別(別)の(の)地(地)の(の)物(物)の(の)取(取)用(用)を(を)金(金)銀(銀)の(の)取(取)交(交)  
合(合)入(入)并(并)純(純)子(子)を(を)意(意)申(申)す(す)人(人)取(取)地(地)の(の)地(地)を(を)申(申)す(す)







七八月一日切下付方一高日切、所お漸く流  
流化中付日延、い中付是、江戸町方へ雙  
命、さしお揚ぐ指准一日延、所お致急指  
地方、等、少、切下付、い、多、路、官、志、一、雙、流、  
田化、乃、下、五、集、又、一、田、化、者、可、人、下、自、公、  
指、如、田、化、永、代、賣、以、割、禁、し、以、賣、札、の、以、  
百、此、田、化、雜、者、之、言、八、永、代、賣、向、如、之、  
考、り、之、も、雙、田、地、一、切、流、化、之、如、指、出、之、  
雙、又、段、新、之、又、一、苗、所、所、之、如、也、如、  
在、雙、年、季、の、以、之、自、能、以、之、也、此、年、真、之、  
不、方、指、新、一、一、割、賣、の、利、積、り、下、以、金、之、

指、之、以、一、高、と、雙、地、少、此、年、真、流、之、  
一、割、賣、利、金、積、り、之、以、之、金、之、由、入、之、  
利、之、之、漸、積、り、積、り、金、之、割、賣、此、年、之、  
定、之、自、能、中、付、之、金、切、下、年、來、年、之、  
之、一、割、賣、之、後、之、一、年、季、之、  
く、是、又、何、後、之、利、分、一、割、賣、之、積、り、  
之、以、之、也

一、雙、地、の、割、賣、指、准、未、多、之、  
已、前、之、由、已、前、指、出、之、  
以、流、地、之、如、事、也、  
所、一、割、賣、之、利、分、之、  
所、一、割、賣、之、利、分、之、







享保七之亥年分

一 東十目工役新列 吾東殿山御倉屋御宗清江  
修初之工長新列 山部之如本有之新年分  
明厚之工長 是役守之工長

一 御城及御屋又出之毒并山青之苗敷之新列不  
及山御北番之山方之新列 山部之如本有之新年分  
新之工長 御城及御屋之工長 山部之如本有之  
新列 山部之如本有之新列 山部之如本有之  
山部之如本有之新列 山部之如本有之新列  
山部之如本有之新列 山部之如本有之新列

享保七之亥年分  
山部之如本有之新列







目錄

- 新國史
- 本朝世紀
- 寬平日記
- 律集解
- 延喜日記
- 令令抄
- 弘仁式
- 貞觀式
- 洽曾孔林
- 乃政錄

- 風土記
- 本朝月令

一卷  
 之卷分六卷

— 律

二卷より六卷  
 八卷より十二卷

— 令集解

二十六卷分二十七卷  
 二十七卷  
 二十九卷



一 新編之代拾

二卷

四卷

六卷

九卷分十一卷三十一

新編國史

六卷分八卷三十一

十卷

十二卷分十二卷三十一

十七卷分二十卷三十一

三十三卷分三十九卷三十一

四十一卷分四十六卷三十一

四十八卷分五十三卷三十一

五十六卷分六十一卷三十一

七十六卷

七十九卷

八十卷分八十六卷三十一

八十八卷分百卷三十一

百二卷分百六卷三十一

百八卷分百四十七卷三十一

百四十八卷分百六十八卷三十一

百六十卷分百六十四卷三十一



百六拾六卷  
 百七十二卷  
 百七十四卷  
 百七拾八卷  
 百八十卷  
 百八十六卷  
 百七十卷  
 百七十九卷  
 百八十一卷  
 百八十二卷

以上

明後十七日取紫山 御書之類 清集訪方工致山志  
 山部凡山部新列山部之類 山部新列山部之類  
 之類凡七の比日新元 向部一山部之類

一 新列山部之類 山部之類 山部之類 山部之類

山部之類

山部之類 山部之類 山部之類 山部之類  
 山部之類 山部之類 山部之類 山部之類

一 山部之類 山部之類 山部之類 山部之類  
 山部之類 山部之類 山部之類 山部之類

一 山部之類 山部之類 山部之類 山部之類

一 山部之類 山部之類 山部之類 山部之類







その世に印後と名おられた瑞徳又長中が書かれた  
寛二下  
を越而くくはれおる也

科人進放の半

右科系係く授物張 正放 正或 亦財國不  
又ハコト不控くハ正料ホれハコト申 科身  
勿得と係く無口有ハコトの取用 長是之様ハ  
此取物も亦ハコト有ハコト申 進放  
云係も進放との以合ハコト申 係ハコト申 進放  
コト申ハコト申 進放ハコト申 進放ハコト申

雙口瓶ハコトの取又ハコト申 進放  
Pハコト申 進放ハコト申 進放ハコト申

寛二下

右ハコト申 進放ハコト申

差

一 以代ハコト申 進放ハコト申 進放ハコト申  
進放ハコト申 進放ハコト申 進放ハコト申  
進放ハコト申 進放ハコト申 進放ハコト申  
進放ハコト申 進放ハコト申 進放ハコト申  
進放ハコト申 進放ハコト申 進放ハコト申



但此法亦畧多人の如し

一 近代法物等類を以て其多し其の業を以て内  
外と分るる実多し其の如くたし其は又賦あり  
修むる上概不細なるなり  
それ物法事等も其今更之は 何れも之修部  
内より其の如く尤而之是極ありて其或は修部  
を以て其を修部と爲し其の如く其の如く其の如く  
其の修部之修部の如く其の如く其の如く其の如く  
其の修部之修部の如く其の如く其の如く其の如く

寛文二年

和文は其法修部は 修部之修部 其の如く其の如く  
未流へ今修部卷一箇あり

印後中より之修文より其の如く其の如く其の如く  
其の修部之修部の如く其の如く其の如く其の如く

寛文二年八月八日

和文は其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の修部之修部の如く其の如く其の如く其の如く  
其の修部之修部の如く其の如く其の如く其の如く  
其の修部之修部の如く其の如く其の如く其の如く

致内修部之修部之修部

其の修部之修部の如く其の如く其の如く其の如く  
其の修部之修部の如く其の如く其の如く其の如く  
其の修部之修部の如く其の如く其の如く其の如く  
其の修部之修部の如く其の如く其の如く其の如く











一日二卷也

十七

一日十卷

五也

以外似旧工産物上是人減か之管之并定成  
こも少持寄く外似工産物上は相  
り

一 聖教院 卷之五 聖教院 中巻之九

一 瑞午 聖教院 卷之五 聖教院 中巻之九

一 聖巻 聖教院 卷之五

一 瑞午 并巻 聖教院 卷之五

一 聖巻 聖教院 卷之五

一 聖巻 聖教院 卷之五

多之也

多之也 聖教院 卷之五 聖教院 中巻之九  
是物之也 聖教院 卷之五 聖教院 中巻之九  
一月 聖教院 卷之五 聖教院 中巻之九

實云

是

聖教院 卷之五 聖教院 中巻之九  
上巻之五 聖教院 卷之五 聖教院 中巻之九  
上巻之五 聖教院 卷之五 聖教院 中巻之九  
上巻之五 聖教院 卷之五 聖教院 中巻之九  
上巻之五 聖教院 卷之五 聖教院 中巻之九







差

一 百石以上之村は、新田合、以て有之、其、其、社、  
以、一、百、石、以、上、之、村、に、在、る、事、

此、等、村、に、在、る、村、も、准、之、

一 百石以上之村は、新田合、有、之、村、に、在、る、事、  
以、一、百、石、以、上、之、村、に、在、る、事、以、  
新、田、合、有、之、事、以、新、田、合、有、之、事、  
以、新、田、合、有、之、事、以、新、田、合、有、之、事、

此、等、村、に、在、る、村、も、准、之、

一 百石以上之村は、新田合、有、之、村、に、在、る、事、  
以、一、百、石、以、上、之、村、に、在、る、事、以、  
新、田、合、有、之、事、以、新、田、合、有、之、事、  
以、新、田、合、有、之、事、以、新、田、合、有、之、事、

此、等、村、に、在、る、村、も、准、之、

一 百石以上之村は、新田合、有、之、村、に、在、る、事、  
以、一、百、石、以、上、之、村、に、在、る、事、以、  
新、田、合、有、之、事、以、新、田、合、有、之、事、

一 百石以上之村は、新田合、有、之、村、に、在、る、事、  
以、一、百、石、以、上、之、村、に、在、る、事、以、  
新、田、合、有、之、事、以、新、田、合、有、之、事、

此、等、村、に、在、る、村、も、准、之、

此、等、村、に、在、る、村、も、准、之、

實、甲



一日新紀大子御見字了後  
修守

券合

村取仔在也

竹中互也

全田因防与配

大信因備守

内辰宗女与配

云信儀在也

滝川信成与配

水谷清之次

有吉内膳与配

赤井忠平





皇  
城  
松